RYUKOKU UNIVERSITY

You, Unlimited

Ryukoku

広報誌「龍谷」

2021 VOLUME 92

社会学部 香美 薫さん

Brand Story

世界は驚くべきスピードでその姿を変え、
将来の予測が難しい時代となっています。
いま必要なことは、「学び」を深めること。
「つながり」に目覚めること。
龍谷大学は「まごころある市民」を育んでいきます。

自らを見つめ直し、他者への思いやりを発動する。
自分だけでなく他の誰かの安らぎのために行動する。
それが、私たちが大切にしている
「自省利他」であり、「まごころ」です。
その心があれば、激しい変化の中でも本質を見極め、
変革への一歩を踏み出すことができるはず。

探究心が沸き上がる喜びを原動力に、
より良い社会を構築するために。
新しい価値を創造するために。

私たちは、大学を「心」と「知」と「行動」の拠点として、
地球規模で広がる課題に立ち向かいます。
1639 年の創立以来、貫いてきた進取の精神、
そして日々積み上げる学びをもとに、様々な人と手を携えながら、
誠実に地域や社会の発展に力を尽くしていきます。

豊かな多様性の中で、心と心がつながる。人と人が支え合う。
その先に、社会の新しい可能性が生まれていく。
龍谷大学が動く。未来が輝く。

You, Unlimited

Ryukoku Magazine

2021 VOLUME 92

広報誌「龍谷」

01 Feature Article

P01
巻頭特集 学長対談
次世代へ繋ぐ自らを省みるSDGs
滋賀県知事　龍谷大学学長
三日月 大造 × **入澤 崇**

02 Ryukoku News

P06
・心理学部（仮称）2023年4月開設予定
・一人暮らしの学生への食支援「百縁夕食」
・仏教SDGs特設サイト「ReTACTION」
・国内私大4位「THEインパクトランキング2021」
・REC設立30周年記念シンポジウム

03 People, Unlimited

P10
社会福祉の知見を活かした
誰一人取り残さない地域防災サポーターに
香美 薫 さん 社会学部

P12
コミュニケーションはトライ&エラー
固まっていた自分の尺度が変化
川上 立馬 さん 文学部

P14
放置竹林の解決に向けて
淡路島産メンマ『あわじ島ちく』を商品化
大山 千裕 さん 政策学部

04 Education, Unlimited

P16
ICTを駆使した龍谷大学付属平安高校との連携授業
「龍谷ICT教育賞・学長賞」を受賞
藤原 学 教授 先端理工学部

P20
学生が社会人と接する機会の創出
法学部メンターシッププログラム
落合 雄彦 教授 法学部

05 Research, Unlimited

P24
ゴールは地下足袋の普及
エチオピアと日本の協奏の旅
田中 利和 准教授 経済学部

P28
新たな発酵を拓く
微生物の相互作用を解明
発酵醸造微生物リソース研究センター長
田邊 公一 教授 農学部

06 Event Ryukoku Museum

P32
人々の願いを形にした女神の数々
その美しくも荒々しい本質に迫る
岩井 俊平 龍谷ミュージアム学芸員

07 Connect, Unlimited

P34
龍谷大学をつなぐ対談
成長と強さを築く「考える力」
パフォーマンスコーチ ゴルフ部（経済学部2年生）
飯田 光輝 さん × **仲村 果乃** さん

08 News & Topics

P38
最新情報

09 Book Café

P42
新刊紹介

10 My Campus

P44
マイキャンパス

01 Feature Article

巻頭特集 学長対談

滋賀県知事
三日月 大造

×

龍谷大学学長
入澤 崇

次世代へ繋ぐ自らを省みるSDGs

三日月 大造　滋賀県知事。1971年滋賀県大津市生まれ。一橋大学経済学部卒業。JR西日本勤務を経て松下政経塾入塾、23期生。2003年衆議院議員初当選。国土交通副大臣などを経て、2014年、無所属で滋賀県知事に出馬。現在2期目。滋賀県基本構想に「変わる滋賀、続く幸せ」を掲げて持続可能な滋賀の実現をめざす。2019年に龍谷大学農学部客員教授に就任。

1989年瀬田キャンパス開設以来深い繋がりがある滋賀県と龍谷大学。この度、三日月大造滋賀県知事と入澤崇学長が「未来にかかわるSDGsに対する考え方」「持続可能な未来の構築」をテーマに対談をおこなった。

三日月：本日はリニューアルオープンしたばかりの滋賀県立美術館へお越しいただきありがとうございます。2022年末には滋賀アリーナ（新県立体育館）が完成する予定です。このびわこ文化公園都市は40年かけて進めてきた一大プロジェクトです。龍谷大学だけではなく医科大学、大学病院、美術館、図書館などが集まって有機的に繋がっています。これからはウェルビーイングをテーマにして研究連携できるような展開を考えています。

入澤：ウェルビーイングはこれから本学社会学部も重視していきます。龍谷大学は1989年にこのエリアに瀬田キャンパスを開設しました。仏教系の大学に初めて理工系学部を設置するにあたり、学内ではかなり賛否が渦巻きました。設置を強力に推進したのは仏教系の先生方だったんです。「科学技術で文明が進化していく、でもそれだけで本当にいいのか。人の痛みや悲しみ苦しみに配慮できる科学技術者を養成していくことも、仏教系の大学の使命ではないか」と強く打ち出されたんです。逆に理工系の先生たちからは仏教を学びたいという声があがりました。続いて2015年に仏教系大学で初めて農学部を開設。農学と理工を繋いで、理想とする現代社会の姿に牽引していってくれることと期待しています。

三日月：今、世界はSDGs（持続可能な開発目標、17のゴール）に向かっています。龍谷大学には里山学研究センターや生物多様性科学研究センターがあり、地道に研究されています。我々は、里山機能、生物多様性、人獣共通に対してどういう視点を持たないといけないのか、研究の中から得られた知見を活かしていきたいですね。

入澤：行政では三日月知事が全国で最初にSDGsに手を挙げられた。だからこそSDGsを推進していく上で、滋賀県と本学が発信力を高めていかなければなりません。SDGsの中身は、今地球全体が抱えている問題が詰まっているわけです。既に1960年代に、工学者でありデザイナーであったフラーが「宇宙船地球号」という発想で「何とかしないと地球が危機的な状況になる」と警鐘を発していました。今人類が踏ん張ってこの課題を真摯に考えなかったら、操縦不能になる。SDGsが単なるファッションで終わってしまわぬよう、人間の生き方、働き方、暮らしにまで踏み込んで考え直さないといけない。私はSDGsを教育の中核に据えるべきだと思っています。嬉しいことに、最近は若者の意識が変わってきていて、社会貢献をしたいという学生が増えています。教える側も意識を変え、自分たちの研究が社会とどう繋がっているのか省みないとだめですね。

三日月：同感です。学生さんたちは未来へのビジョンを持っていろんな活動をしていますね。滋賀県はSDGs達成に向けて、まず最初に自治体が主体的に取り組むべきと手を挙げました。「びわ湖の日」を定めて40年目の今年、「琵琶湖」を切り口として持続可能な社会をめざすために琵琶湖版のSDGs「MLGs（マザーレイクゴールズ）」を定めました。琵琶湖に関わる様々な方が集まる「びわコミ会議」の10年間におよぶディスカッションが13のゴールに結実しています。豊かな地球、自然を守るためには、まず身近なところからやれることを探そうというチャレンジです。

入澤 崇　龍谷大学学長。1955年広島県因島生まれ。龍谷大学大学院文学研究科博士課程単位取得満期退学。専門は仏教文化学。1990年文学部仏教学科に着任。ベゼクリク石窟壁画の復元事業や数多くの仏教遺跡調査に従事。2004年から5年間アフガニスタン仏教遺跡学術調査隊の隊長を務める。龍谷ミュージアム館長、文学部長を経て、2017年4月に学長就任。

入澤：瀬田キャンパス南側に湖南アルプスと呼ばれている田上山がありますね。あそこはわが国で一番最初に環境破壊が起こったところと言われています。東大寺を建て、比叡山延暦寺そして石山寺、お寺を建てるのに良い檜を使いたい、それが田上山にあるということで、どんどん切ってしまった。お寺を建てたと同時に環境破壊を起こしていたんですね。こういう話は、これまであまり聞かなかったかと思います。仏教界では今まで意識されにくかった環境問題ですね。このことは今後、仏教者が積極的に取り組むべきことだと思っています。私は仏教者として贖罪の気持ちを抱いております。

三日月：実は、三日月一族は甲賀・鹿深地域の杣人で、木を生業にしていたのでお寺を建てにも行ったでしょうね。田上山は明治時代にハゲ山となり、砂防の必要が生じ、日本で最初の近代砂防をおこなったという歴史があります。自然は一度壊れると、簡単には元に戻らない。琵琶湖も同じで、1977年琵琶湖で淡水赤潮が発生したときに、石けん運動が起こり、県では日本で初めて窒素やリンを規制する富栄養化の防止条例を定めました。最近では、気候変動の影響により琵琶湖の深呼吸、全層循環ができていないという現象が出始めています。酸素が湖底まで行き渡らなくて、湖底の生物が生きられないだけでなく、栄養塩類や金属が底質から水中に溶出してしまいます。我々は琵琶湖を自然と向き合う鏡として、地球の自然環境の異変を見つけ、行動変容に繋げていく必要があると考えています。このびわこ文化公園都市周辺には日本を代表するグローバル企業が生産研究拠点を持っており、世界がSDGsという前から地球環境問題を克服するために、ゼロエミッションを目標に掲げ電化製品を作る、海水を淡水化するなど、最先端技術を世界へと送り出してきました。これからも、人を大切にしなくなった経済、自然を恐れなくなった科学技術をもう一度省みて改め、次の時代へ繋げていくことが使命だと考えています。龍谷大学は400周年に向けて様々なビジョンを打ち出されています。SDGsの推進も、ともに連携していけば滋賀県が一つのモデルケースになれるのではないでしょうか。

入澤：龍谷大学は、SDGsと仏教の精神を結びつける「仏教SDGs」という本学独自の視点を踏まえ、学内外の叡智を結集し、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを開始しました。6月からは仏教SDGsに資する教育、研究、社会貢献の諸活動を紹介するWEBマガジン「ReTACTION」を始めました。「利他」と「アクション」を組み合わせて「リタクション」。さらにRe（再び）、TACTION（触覚）、「今一度感覚を研ぎ澄まして次に踏み出そう」という二重の意味を持たせています。SDGsは「誰一人取り残さない」という確固たる視座に基づいての行動目標です。新しい視点を得て、視野を広げていく。視座と視点と視野。この3つで学生たちが物事を見るようになるとこれからの社会は自分たちの行動次第だという意識がどんどん高まってくるはずです。そしてもう一つ大切なことは「繋がる」ということです。大学教育の基本は知識を得るだけではなく人格を形成するという面もあります。教員、先輩、友だちなど人との触れ合い、繋がりを大切にしていかなければなりません。SDGsの課題に対しても、大学も自治体と一緒になり、学生たちが「公」の精神を培い、新たな行動様式を模索し、新しい社会は自分たちがつくるんだという意識が持てる環境を、提供していかないといけません。是非一緒に取り組んでいきましょう。よろしくお願いします。

02 Ryukoku News

心理学部（仮称）2023年4月開設予定（設置構想中）

「社会と向き合い、人を支える心理学」を学ぶ

龍谷大学は、2023年4月、本学の10番目の学部として、心理学部の開設を予定しています。
これは、構想400の一環として展開する事業で、母体となる文学部臨床心理学科での実績を基盤に、さらに教学内容を充実・発展させるものです。臨床心理学における実践的スキルを基礎に「社会と向き合い、人を支える心理学」を学ぶことができるようにカリキュラム等を整備します。

心理学部の概要

学部名称	学科名称	学位	入学定員	編入学定員 ＜3年次＞	収容定員
心理学部	心理学科	学士（心理学）	255 人	10 人	1,040 人

1・2 年次：深草キャンパス／ 3・4 年次：大宮キャンパス

主な特徴

（1）心理専門職の資格取得を目指したカリキュラムの充実
（2）新たな専門性への社会的要請に対応した学びの実施
（3）現場で発揮できる実践力の養成
（4）対人支援の心理学マインドをもって多様な職種で活躍できる人間を育成

心理学部（仮称）特設サイト
（龍谷大学 HP からもご覧いただけます。）

※設置計画は予定であり、内容に変更が生じる場合があります。

コロナ禍で困窮する一人暮らしの学生に「百縁夕食」で食支援

栄養バランスのとれた夕食を100円で提供

龍谷大学は、長引くコロナ禍により学生生活に様々な影響が生じていることを危惧して、昨年度に引き続き学生へ緊急アンケート調査を実施。その結果から、緊急事態宣言などによるアルバイトの制限や、家庭の経済的理由などで、一人暮らしの学生の約20%が食費を削らなければならないという現状を把握し、緊急に食支援が必要なことを確認。その支援策の一つとして、本学と龍谷大学生協が連携して「百縁夕食（ひゃくえんゆうしょく）」を6月21日から8月3日まで深草・瀬田の両キャンパスにて実施し、延べ11,383名の学生が利用しました。

「百縁夕食」は一人暮らしの学生を対象に、バランスのとれた夕食を1食100円で提供するとともに、上級生らによる「サークルなんでも相談」や「授業なんでも相談会」を夕食の前後に実施することで、百（多く）のご縁（つながり）が広がっていくよう応援する取り組みです。これを大学の食堂でおこなうことにより、大学側としても元気な学生の姿を確認することができました。

また、先輩たちによるレポートの書き方や試験・成績に関する相談などもおこなわれ、コロナ禍の制限で友達づくりや課外活動が十分におこなえなかった1、2年生にとっては、学生同士の交流にも繋がり、大変好評でした。

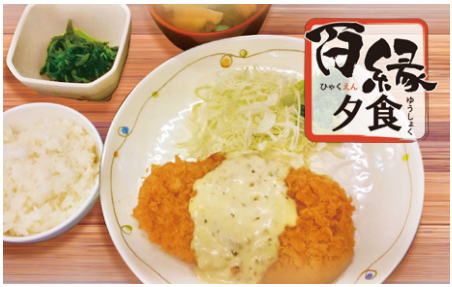
※「百縁夕食」は全て事前予約制とし、食事中は黙食をするなど感染症予防対策を徹底した上で実施しました。

日用品を無料配付

本取り組みに賛同した京都生活協同組合様から、洗剤やトイレットペーパー、生理用品などの日用品を寄贈していただき、百縁夕食利用の学生へ無料配付いたしました。

「ゲンゴロウ郷の米」200kgを提供

「百縁夕食」期間中の7月21日、政策学部の学生がPBL科目「政策実践・探究演習」として開発した「ゲンゴロウ郷の米」約200kgを、連携先の京丹後森本アグリ（株）様から寄贈していただき「百縁夕食」での実食提供と、一人暮らしの学生に無料配付をおこないました。



仏教SDGs特設サイト「ReTACTION」を開設

龍谷大学では、創立400周年の2039年度に向けた長期計画である「龍谷大学基本構想400」において、SDGsと仏教の精神を結びつける「仏教SDGs」という独自の視点で多様な取り組みを展開しています。

この度、本学の仏教SDGsに資する教育、研究、社会貢献の諸活動を紹介するWEBマガジン「ReTACTION」を開設しました。ReTACTIONには「ReTA（利他）＋ACTION（行動）＝自省利他に基づいて行動する」、「Re（再）＋TACTION（触覚）で今一度感覚を研ぎ澄まし、世界に触れてみれば、持続可能な社会につながるヒントを得る」という2つの意味を込めています。

「ReTACTION」では「HUMAN」「NATURE」「REGIONAL」の3つのテーマを定め、SDGsの17のゴールを整理し情報発信をおこなっています。（下図参照）

主な内容は、社会課題に立ち向かうゼミの活動や教員の研究活動、ソーシャルベンチャービジネスを起業して活躍する卒業生に関連する記事等を掲載しています。

龍谷大学は、意識改革と実践的な活動の両輪でSDGsを推進していきます。是非ご覧ください。

WEBマガジン「ReTACTION」
（龍谷大学 HP からもご覧いただけます。）

Re HUMAN
ジェンダー／福祉／健康／人権

ジェンダー、身体的特徴、文化…これまで違いと認識してきたものを多様性として受け止め、多様性自体を社会のパワーに変える活動。

Re NATURE
環境保全／生物多様性／エネルギー

あらゆる生命と暮らしの基盤である地球。海、森林、川や湖といった自然と、そこに住む生物が共存するための持続可能な研究や活動。

Re REGIONAL
地域活性化／コミュニティ／働きがい

自然、文化、インフラ環境、資源…それぞれの地域が抱える問題を理解し、持続可能な地域のあり方を探求する研究や活動。

共通のカテゴリー

SDGsに対応した「THEインパクトランキング2021」で国内私立大学4位

2021年4月、英国の教育専門誌タイムズ・ハイヤー・エデュケーション（THE）社による「THEインパクトランキング2021」の結果が発表されました。龍谷大学は初めてこれにエントリーし、総合順位で世界「401-600位」、日本国内の私立大学では「4位タイ」にランクインしました。そのなかでも、エントリーする大学全てに求められる目標のSDGs17における「SDGs 教育」で、高い評価を受けました。

THE インパクトランキングは、国連サミットで採択されたSDGs（持続可能な開発目標）の枠組みを使って、各大学における社会課題解決に資する取り組みを評価する世界的な大学ランキングです。

本学はこれまで、建学の精神である浄土真宗の精神のもと、多様に展開する教育・研究活動を通じて社会的課題の解決に取り組んできました。こうした取り組みは、「誰一人取り残さない」ことを旨とするSDGsの理念と合致するものです。今回のランキング結果から、本学の姿勢が世界的に評価されたものと受け止めています。現在、本学では創立400周年にあたる2039年に向けた長期計画「龍谷大学基本構想400」を推進しています。そこでは、SDGsと仏教の精神を結びつける「仏教SDGs」という本学独自の視点を踏まえ、学内外の英知を結集し、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを加速させていきます。

2021年11月7日（日）REC設立30周年記念シンポジウムを開催

龍谷エクステンションセンター（REC）は、11月7日（日）に「REC設立30周年記念シンポジウム」を瀬田キャンパスで開催します（オンライン配信）。

当日は、環境事務次官の中井徳太郎氏をお招きし、世界的な課題である持続可能な社会創造の観点からご講演いただき、パネルディスカッションでは、本学関係者や自治体関係者等とともに、これからの社会において本学に求められる役割などについて議論する予定です。

大学の知的資源と先進的な施設・設備を広く社会に開放し、多くの人々や機関と連携を深めてきた30年の節目を迎え、シンポジウムを通じて将来に向けたビジョンを共有する機会と位置付けています。

記念事業への参加申し込みは
RECホームページまで
（10月上旬から公開予定）

大津市の消防団機能別団員入団式で任命される香美さん

03 People, Unlimited

社会学部現代福祉学科４年生
奈良県立郡山高等学校　出身
香美　薫　さん

社会福祉の知見を活かした
誰一人取り残さない地域防災サポーターに

龍谷大学と大津市は2005年3月に「大津市と龍谷大学との協力に関する協定書」を締結した。防災の分野で社会学部が大津市消防局の指導や協力を得て、各種訓練や救命講習といった実践的な防災教育を展開している。国は昨今、団員数が減少している地域防災の要である消防団の充実強化のため、消防団の活動を補完、補助する役割を担い、能力や事情に応じて特定の活動のみ参加する機能別団員制度を制定。大津市では初めての学生団員として本学学生５名を任命し、2021年7月に入団式をおこなった。その一人が社会学部の香美 薫さんだ。

「私は社会福祉士をめざしていて、高齢者施設での現場実習中におこなわれた防災訓練に参加したのですが、高齢者の方を迅速かつ安全に避難させるのは想像以上に大変で、福祉における防災力の重要性を痛感しました。地域防災には住民、とくに私たちのような若い世代の力が必要と感じたことが入団のきっかけです」

避難所では、プライバシーや衛生・安全面で高齢者や子ども、女性への配慮が求められています。そういった問題に対して「女性だからケアできることはもちろん、社会福祉の授業で学んだ高齢者や子どもとの接し方、課題解決の手法などが活かせると思います」と力強く語る香美さん。消防団での活動や学びを本学にも根付かせたいと、社会学部と農学部の学生団員3名で防災サークルを結成。教職員の防災対策会議や訓練への参加、学生の防災訓練の実施、消防団の広報などを展開していく予定だ。

「災害が発生すれば、大学も避難所になります。そのとき、誰もが自身と周りの命を守る行動ができるよう、サークルでの活動にも力を入れていきます。私は４年生なので、今後は学生団員を後輩へと繋ぎ、社会人になっても防災に関わり続ける予定です」

香美さんをはじめ学生団員たちの存在が、学生たちの防災意識を高めていくことを期待したい。

03 People, Unlimited

文学部哲学科４年生
大阪市立高等学校 出身
川上 立馬 さん

コミュニケーションはトライ&エラー 固まっていた自分の尺度が変化

大阪府四條畷市にあるNPO法人「クレヨン・リンク」は、「障がい者が当たり前に暮らせる地域」づくりをめざし、活動する地域参加型サークルだ。大学入学まで障がい者と接したことがほとんどなかった川上さんが、同法人の顧問をつとめる文学部の林美輝教授の紹介で「クレヨン・リンク」を訪れたのは、ここで毎月開催している障がい者向けスポーツ「ボッチャ※」に興味を持ったから。

「私は運動が得意な方ですが、自分がうまくプレーするよりも、みんなで楽しみたいタイプ。それで運動能力や体力・性別に関係なく誰もが楽しめるスポーツをしてみたいと思っていました。クレヨン・リンクでボッチャをして驚いたのは、障がいのあるなしに関係なく接戦になること。ベストな場所に球を近づけられたときは歓声が上がってものすごく盛り上がるんですよ」

すっかりボッチャの魅力のとりこになり、「クレヨン・リンク」の活動に毎月参加するようになった川上さんは、障がいのある人への接し方をもっと知りたいと、同法人でおこなわれているコミュニケーションの勉強会（アサーション入門講座）にも参加。そこで学んだのは、自分が良かれと思っていたコミュニケーションと障がい者の望むコミュニケーションに大きなズレがあることだった。それからの川上さんは、活動に参加するたびにその日のやりとりを振り返っては反省メモを何枚も書き残し、次の活動で改善を心がけた。

「アサーションを通じて学ぶなかで、自分の尺度だけで物事を判断し、それを相手に押し付けていた自分に気がつきました。まず自分は未熟だと謙虚になり、『私はこう思うけど、どう？』と相手の気持ちを傾聴することを心がけるようになってからは、クレヨン・リンクだけでなく大学でも人間関係が円滑になって、自分自身も楽になっていきました」

面白そうだと飛び込んだ「クレヨン・リンク」の活動を通して、他者の想いに耳を傾け自らを省みることを身をもって体験した川上さん。その思いやりのまごころは、きっと社会に出てからも周囲の人々を笑顔にしてくれるに違いない。

※ボッチャとは　ジャックボールと呼ばれる白いボールに赤・青それぞれ6球ずつのボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりしていかに近づけるかを競うパラリンピックの正式種目です。投げることが難しい選手はキックあるいは介助者のサポートを受けて勾配具を使いボールを転がします。

ボッチャを楽しむ「クレヨン・リンク」の柳橋 仁さん（左）と川上さん（右）

03 People, Unlimited

政策学部政策学科 3 年
神戸市立六甲アイランド高校 出身
大山 千裕 さん

淡路島でフィールドワークをする大山さん

放置竹林の解決に向けて
淡路島産メンマ『あわじ島ちく』を商品化

美しい自然と豊かな資源に恵まれた淡路島。しかし近年は農漁業の担い手の高齢化、放置竹林問題など様々な社会課題を抱える地域でもある。本学政策学部のPBL科目「政策実践・探究演習」の「洲本プロジェクト」では、2013年から兵庫県洲本市の課題解決をめざした活動をしており、そのなかの「竹ビジネス班」はこれまで地元の方と一緒に竹林伐採整備をおこない、竹チップボイラーの調査をするなど、竹の有効活用法を探ってきた。

様々な活動をするなか、地元の市民団体「あわじ里山プロジェクト」が取り組んでいる幼竹メンマ製造の話をきっかけに、一緒に新たな地場産業の創出と放置竹林の解決をめざしてメンマ製造に着手。淡路島産の幼竹を使った『あわじ島ちく』を2020年9月に商品化した。

政策学部3年生の大山さんは、2020年よりプロジェクトに参加。洲本市や地元の市民団体、生活協同組合、食品加工会社などと連携しながら竹林整備やメンマ作りを手伝っている。コロナ禍でフィールドワークが中止になるも『あわじ島ちく』の広報を担当する「竹ビジネス班」のメンバーとして、レシピを自宅で開発し、活用・PR方法をオンラインで話し合い“「あわじ島ちく」アレンジレシピ集2021年版”を制作発行した。

地域の政策プロジェクトを多くの関係者と協働するうち、これは本気で関わらねばと、大山さんは授業以外でも自主的に活動に参加するようになったという。

メンマは99%が輸入品であり、希少な国産メンマは注目を集めているが、事業化するには放置竹林整備の資金が必要だ。そこで、牡蠣の養殖に用いる筏の素材として放置竹林の竹を販売するなど、収益性を見込む事業の展開を視野に入れている。

この「洲本プロジェクト」、実は大山さんの夢にも繋がっている。「食の“もったいない”を減らしたいという想いから、余剰食材を扱う食料品店を開くのが私の夢。使いみちのなかった竹を食材に活用するように、少しでも社会課題の解決に貢献したいと思っています」。このプロジェクトを通じて大山さんが得る学びは、社会にとっても希望の光となるはずだ。

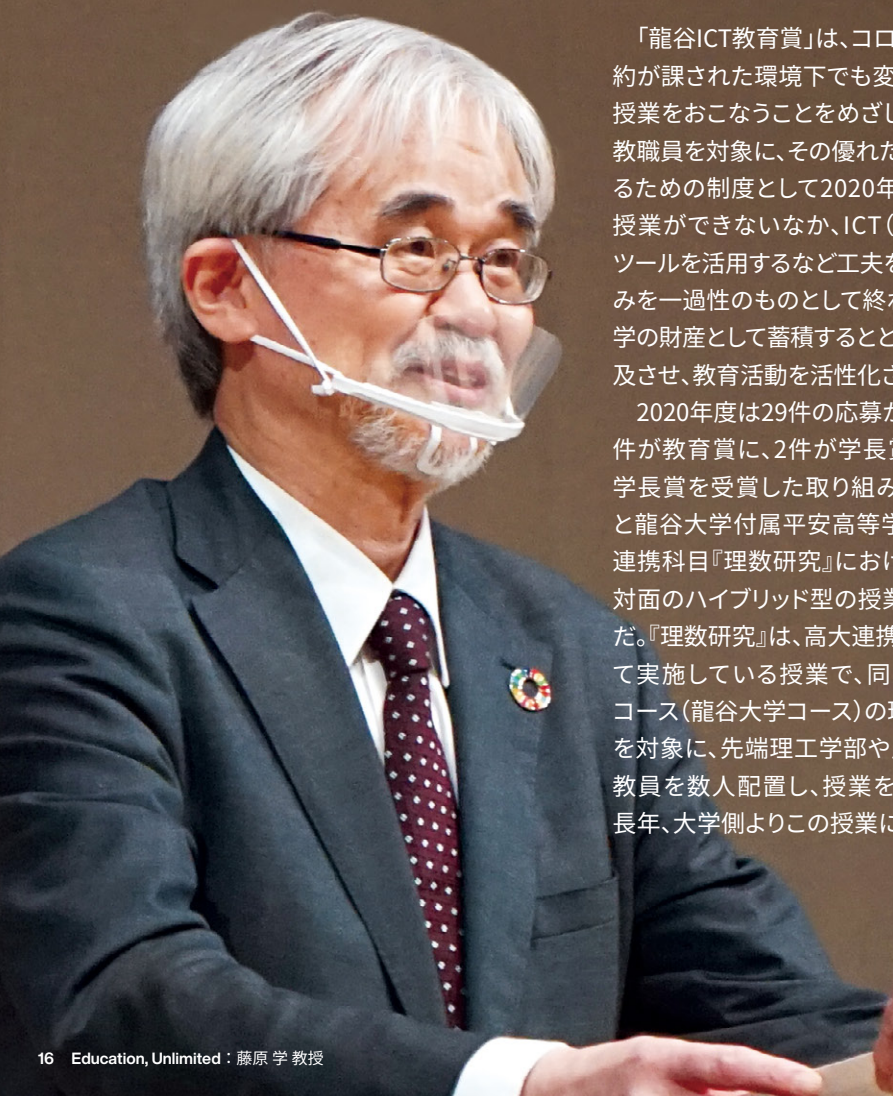
「あわじ島ちく」
アレンジレシピ集

04 Education, Unlimited

先端理工学部 応用化学課程
藤原 学 教授

4 質の高い教育をみんなに

ICTを駆使した龍谷大学付属平安高校との連携授業「龍谷ICT教育賞・学長賞」を受賞



高校時から大学に繋がる学びを

「龍谷ICT教育賞」は、コロナ禍で様々な制約が課された環境下でも変わらず質の高い授業をおこなうことをめざして尽力してきた教職員を対象に、その優れた取り組みを称えるための制度として2020年度に創設。対面授業ができないなか、ICT（情報通信技術）ツールを活用するなど工夫を凝らした取り組みを一過性のものとして終わらせず、龍谷大学の財産として蓄積するとともに大学内に波及させ、教育活動を活性化させるものである。

2020年度は29件の応募があり、そのうち9件が教育賞に、2件が学長賞に選出された。学長賞を受賞した取り組みの一つが、本学と龍谷大学付属平安高等学校による「高大連携科目『理数研究』におけるオンラインと対面のハイブリッド型の授業展開について」だ。『理数研究』は、高大連携事業の一環として実施している授業で、同校のプログレスコース（龍谷大学コース）の理系クラス3年生を対象に、先端理工学部や農学部から担当教員を数人配置し、授業をおこなっていた。長年、大学側よりこの授業に関わり、2020年

度まで高大連携推進室長を務めた藤原学教授にお話を伺った。

「『理数研究』は従来の暗記中心の受験勉強ではなく、興味関心を育て考える力を養うことで大学に繋がる基礎力を育むことを目的にしています。例えば高校で学ぶ数学は、時間内に問いを公式に当てはめて答えを導くことを訓練します。これは、もちろん大学でも役に立つのですが、大学で学ぶ数学は公式の本質的な意味はどこにあるか、新たな公式をどのようにつくるのかなどについて深く考えます。このことを知らずに高校の数学が得意であるからと数学を専門とする学科に進学した生徒は、面食らってしまうでしょう。大学の学びに近い『理数研究』を通じて大学の学びを理解することができ、進学の際のミスマッチを防ぐことができます。また、授業の内容は、高校生にわかりやすいテーマを扱いますが、高校の授業とは視点が異なります。一つの現象について違う見方をしてみれば、数学で学んだことが物理や化学でも活かされることに気がつく。科目の垣根を越えて、自由に思考できるようになったとき、本当に主体的な学びが始まるのです」

入澤学長から「龍谷ICT教育賞・学長賞」を受賞する龍谷大学付属平安高等学校教頭矢ノ根聡先生

ICTを活用して対面と遜色ない授業を実現

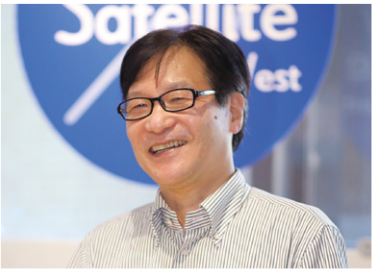
これまで10年以上続いてきた高大連携授業の『理数研究』だが、昨年のパンデミック下の4、5月は全国一斉休校措置で対面授業ができなかった。その後、生徒と教員の努力によりICTを活用した試みがなされ、新しい授業形態が次第に日常となっていった。コロナ禍以前からICTに取り組んでいたものの、情報設備の問題もあり、その教育的効果は十分ではなかった。2020年度は、高校の先生方がこれまでの経験を活かして課題としてあがったところを改善され、そして先生方の指導により生徒たちは新しい状況に見事に対応した。そのなかで、一番の壁であったのは、これまで重視してきた協働学習をどのように実施するか。そこは、Googleドライブ上でファイルを共有し、manabaのプロジェクト機能を用いることでクリア。これらのICTを用いればグループメンバーがファイルを同時に開いて作業ができ、生徒同士の意見交換や担当教員の添削指導もリアルタイムでおこなえて、従来よりも生徒が主体的に授業に取り組む姿が見られた。さらに『理数研究』では、中間発表とともに最後に研究発表会をおこなうが、これもオンラインで開催した。

「発表者用スクリーンと、オンライン参加者のスクリーンを用意することで、対面での質

龍谷ICT教育賞表彰式の様子

疑応答と同じように実施できました。さらに特筆すべきは参加者の多さ。これまで発表会場に足を運べなかった教員もオンラインなら、と従来の5倍にあたる20名以上が参加。さらに卒業生も多数参加してくれて、多様な視点からのコメントが飛び交い、質疑応答も大変盛り上がったのです。今後対面授業ができるようになっても、今回得たオンラインの良さを活かしてハイブリッドの授業になるでしょう」

ICTはコロナ禍を経て教育に不可欠なものとなり、今後ますます重要性を増すだろう。今回の事例を活用し、どんな状況であっても学びの機会と質を担保する仕組みがさらにブラッシュアップされることを期待したい。



藤原　学

大阪大学大学院工学研究科修士課程修了、同博士課程中退。福岡大学理工学部化学科助手、本学理工学部物質科学科助手を経て２００１年より現職。専門は分析化学。X線分析を中心とした機器分析化学を研究テーマに、金属材料、絵画や大谷コレクションなどの考古試料、水や森林土壌といった環境試料など、有機物・無機物問わず幅広い対象を研究するとともに、信頼性の高い新しい分析手法の開発にも取り組む。

04 Education, Unlimited

法学部 法律学科
落合 雄彦 教授

17 パートナーシップで目標を達成しよう

学生が社会人と接する機会の創出
法学部メンターシッププログラム

大学を接点として学生と卒業生を繋ぐ

法学部では、2019年から「メンターシッププログラム」という、学生と卒業生の間の新しい交流プログラムを展開している。このメンターシッププログラムを企画し、中心となって推進しているのが落合雄彦教授だ。

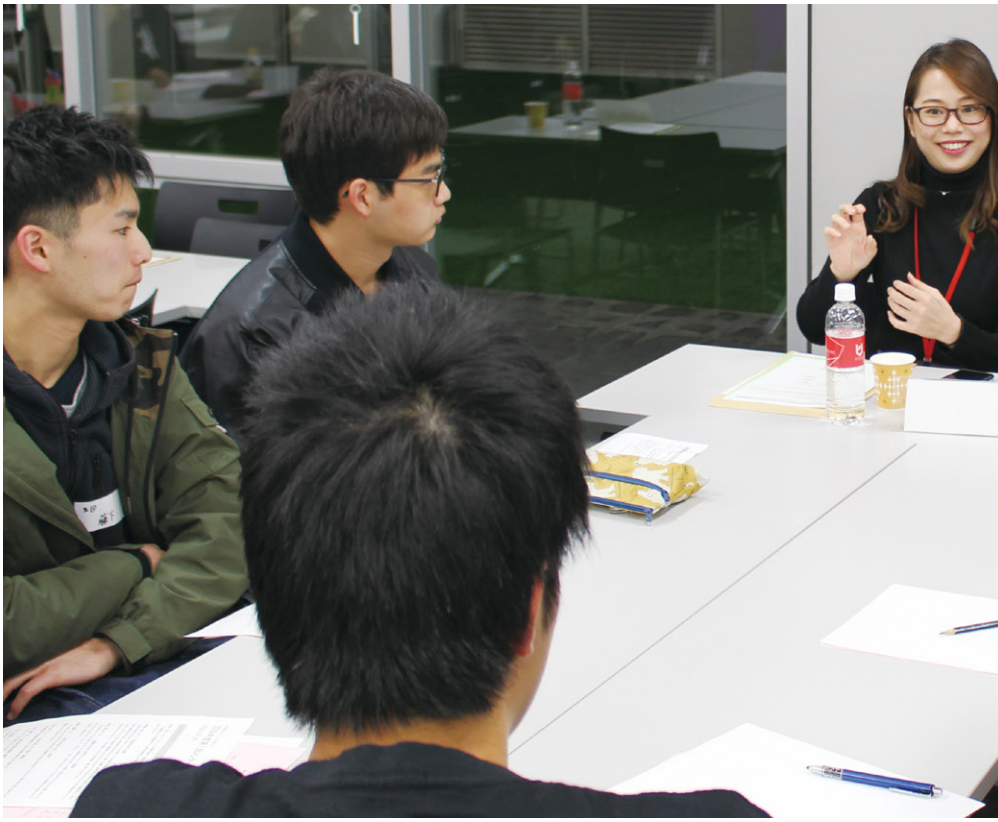
「プログラム立案のきっかけは、私の個人的な二つの気づきにありました。一つ目は、南アフリカで暮らす日本人女性から教えてもらった気づきです。彼女が南アフリカの男子大学生たちと食事をしていたときのこと、席をちょっとはずそうとして立ち上がると、学生たちも全員が一斉に立ち上がり、ひとりが椅子を優しくひいてくれたというのです。彼女は、彼らのそうした大人びた振る舞いに感動したそうです。治安があまり良くない南アフリカでは、子どもは大人と一緒に行動し、小さい頃から大人のルールを自然と身につけます。他方、治安が良い日本では、子どもは子どもたちだけで行動し、子どものルールに順応します。そこに違いが生まれるのです。南アフリカの知人の話から、日本の大学生の人間成長のためには社会人との接触機会をもっと増やすことが大切だ、と気がつきました」

日本の大学生が日頃から接する大人といえば、家庭では親、大学では教職員、アルバイト先では店長といったところだろうか。学生がもっと多様な社会人と接することができれば、社会的あるいは人間的により成長することができるはず、落合教授はそう考えた。

「もう一つは、龍谷大学の卒業生は母校への愛着や繋がりが、もしかすると他大学よりも希薄かもしれない、という私の気づきというか危機感です。卒業後も母校と関わることができるまったく新しいチャンネルを卒業生に是非提供したい、と私は思いました」

法学部メンターシッププログラムは、この二つの気づきから始まった。学生の人間成長の促進という対学生政策上の目標と、卒業生との関係強化という対卒業生政策上の目標を、両者を繋ぐメンターシップという一つの交流活動で達成しようとする、まさにツーインワンの本学初のユニークな取り組みだ。

メンターラウンジの様子



全学のフロントランナーとして普及をめざす

メンターシップは、メンター、メンティー、メンタリングという三つの要素から構成される。「メンター」は助言者や相談相手を意味し、現在、法学部の卒業生を中心に約60名が登録。会社員、公務員、士業などバラエティも豊かだ。「メンティー」はメンターから助言を受ける者を指し、2年生が中心だが、法学部の学生であれば誰もがメンティーになれる。そして、メンターとメンティーの間の交流を「メンタリング」と呼ぶ。

メンタリングには、①メンターとメンティーが1対1でおこなう「個別メンタリング」、②1人のメンターと数名のメンティーがグループディスカッションをする「メンターラウンジ」、③メンターが1人ずつテーブルに座り、メンティーが自由に移動しながら話し合う「メンターフェア」の3種類がある。

2020年度はコロナ禍のため、オンライン開催のみとなったが、オンライン形式でのメンタリングには、遠方の卒業生もメンターとして参加できるなどのメリットがある。今後は、対面とオンラインの二つの形式でメンタリングを開催することも検討する。

多数の卒業生を輩出してきた龍谷大学。その豊かな人的資源を在学生のキャリア形成を含む人間的な成長に活かすこと、それが

メンターフェアの様子

法学部メンターシッププログラムの一つの目的だ。しかし、それだけではない。卒業生側も、このプログラムに参加し、自らの知見や経験を学生と共有することで、母校に貢献する喜びや若者との交流による刺激などを実感することができる。メンター（卒業生）とメンティー（学生）の双方を利する、まさにウィンウィン的な優れたプログラムといえそうだ。

最後に落合教授は「龍谷大学のなかで初めてメンターシッププログラムを本格的に導入した法学部が、これからは全学のフロントランナーとして、このプログラムを大学全体へと普及させることに貢献していきたい」と今後の抱負を語ってくれた。

落合 雄彦

慶應義塾大学大学院法学研究科政治学専攻修士課程修了。英国バーミンガム大学大学院西アフリカ研究センター修士課程修了。慶應義塾大学大学院法学研究科政治学専攻後期博士課程単位取得満期退学。専門はアフリカ現代政治。1991年、国連ボランティア（UNV）としてイラク北部でクルド帰還民支援活動に従事。日本学術振興会特別研究員などを経て、2002年龍谷大学法学部着任。2006年より現職。2018年法学部長に選出（2020年任期満了）。2020年より日本アフリカ学会理事。

05 Research, Unlimited

経済学部 現代経済学科
田中 利和 准教授

3 すべての人に健康と福祉を
8 働きがいも経済成長も
9 産業と技術革新の基盤をつくろう

ゴールは地下足袋の普及
エチオピアと日本の協奏の旅

日本の地下足袋は「牛の足」だった

中学生のとき、スタディツアーで訪れたエチオピアで「現地の人々の生きる力の強さに完全に魅せられました」と語る田中利和准教授。必ずここに戻り、何らかの形で貢献したいと、大学院で人類学と農業研究を専攻。

エチオピアの農業の主流である「牛耕」について参与観察するために、ついに思い焦がれていた地へ。オロミヤ州ウォリソの農村で、牛が耕す畑に彼らと同じように裸足で喜び勇んで入った瞬間、激しい痛みが足を襲った。原因はエチオピア特有の黒土・バーティソル。粘性が非常に強く、水を含むと土がまとわりついて足をとられるのだが、乾燥するとガラス片のように鋭利になる性質を持つ。これが足に突き刺さるため、裸足では身動きすらとれなくなってしまったのだ。

「初日は、農民の方に背負ってもらって、畑から脱出するありさまでした」

現地には牛耕用の履物は存在しなかったため、次の日からは畑に入るための履物を試行錯誤。靴下を履くと痛みを感じにくく、何とか動くことができたが、わずかな時間でボロボロに破けてしまい、使いものにならなくなった。

「そこで、頭に思い浮かんだのが日本の地下足袋です。翌年の参与観察では、地下足袋を持ち込んで装着したところ、動きやすい、痛くない、丈夫と、エチオピアの黒土の畑での耕作にうってつけでした」

農民たちは、この未知の履物・地下足袋に「形も働きぶりも、畑を耕してくれる牛の足のようだ」と驚きや興味を示す一方「私たちの足だって痛い。その履物が欲しい」と切望された。

「現地の人はこの黒土を耕しながらも、足の痛みに悶絶していると考えるようになりました。負傷が原因で、ポドコニオシスという非フィラリア性象皮病などの足の疾患を発症したり、破傷風で最悪死に至るといった問題にも直面していることがわかってきました」

田中准教授は、人々の足、そして命を護るため、エチオピアでの地下足袋の普及を決意する。「単に日本から地下足袋を寄贈するのではなく、現地の資源を活用し、主体的かつ持続的な課題解決の仕組みを構築するため、「つかう・つくる・うる・つたえる」という4つの実践・研究セクションを設定しました。地下足袋の“たび”と旅をかけて『エチオピアと日本の協奏の旅』と銘打ったプロジェクトとしてスタートさせました」

エチオピア・ウォリソで参与観察をする田中准教授

エチオピア農民の足を護る「Ethio-Tabi」を

まず「つかう」のセクションについては、老舗地下足袋メーカー株式会社丸五（岡山県倉敷市）の協力を得て地下足袋を現地住民に提供。試用調査では痛みがない、日常の履物としても快適だと好評を得た。

次に「つくる」のセクションについては、エチオピアは靴産業が盛んで、革や布、ソールのゴムといった原材料および職人の確保が可能。田中准教授の友人で、起業家・皮革職人のカッバラ氏が丸五の地下足袋を参考にプロトタイプ第1号を作り上げた。

「想像以上の出来に友人ともども手応えを掴み、エチオピア産の地下足袋を『Ethio-Tabi（エチオタビ）』と命名しました」

さらに丸五が惜しげもなく地下足袋の鋳型を提供、企業秘密の製造方法も開示。ファッション性を備えた革製の日常用と、布製の農作業用「Ethio-Tabi」が完成した。

「ただ、農作業用はゴム底が剥がれやすく改善が必要です。『うる』に関しても、現地で販売会をおこないましたが、経費、製造量、農民の労働と収入サイクルの面から価格設定は難しく、ビジネスとして軌道に乗せるにも課題は山積みです。そのため、日本での『つたえる』も強化し、クラウドファンディングなども進めていく予定です」

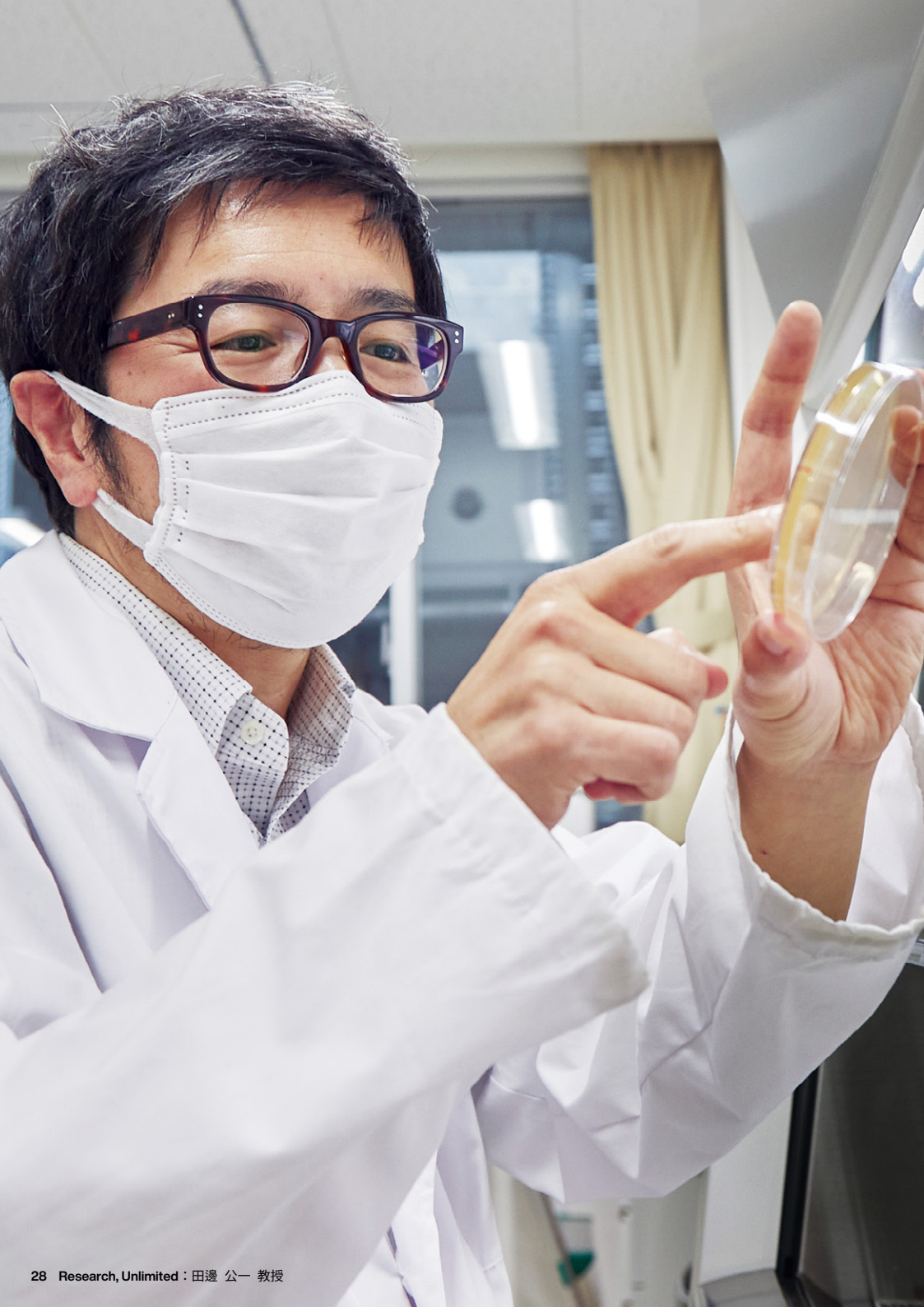
エチオピア産の地下足袋を「Ethio-Tabi（エチオタビ）」と命名

課題も多い一方「エチオピアで地下足袋」というユニークさから各方面の注目を集め、センサー搭載の地下足袋の研究・開発、運動生理学による身体情報の分析、アーティストによる「Ethio-Tabi」の絵本製作など、協奏の輪が拡大している。「こういった広がりもプロジェクトの狙いです。私は研究者の基盤を築いてくれたエチオピアへの感謝の気持ちも込めて、協奏のコンダクターや異分野のブレンダーとして力を尽くしていきたい。日本でEthio-Tabiが使われることも夢見ています」

「Ethio-Tabi」がエチオピアの人々に豊かさや幸せをもたらす存在となるその日まで、協奏の旅は続く。

田中 利和

京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究科アフリカ地域研究専攻博士課程修了。博士（地域研究）。京都大学アフリカ地域研究資料センター特任研究員、頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラムにて、ロンドン大学東洋アフリカ研究学院（SOAS）に留学。東北大学東北アジア研究センター教育研究支援者・学術研究員を経て、2020年4月龍谷大学着任。



05 Research, Unlimited

発酵醸造微生物リソース研究センター長
農学部 食品栄養学科
田邊 公一 教授

9 産業と技術革新の基盤をつくろう
12 つくる責任 つかう責任
15 陸の豊かさも守ろう

新たな発酵を拓く 微生物の相互作用を解明

駆逐か共生か、微生物の関係性

龍谷大学は2021年4月、滋賀県の発酵醸造関係企業との連携や共同研究を推進する「発酵醸造微生物リソース研究センター」を設立。主に食品や自然環境から麹菌、酵母、乳酸菌を探索・収集し、異種微生物間の相互作用を解明することで、新たな発酵食品の開発をはじめ、地域の発酵醸造産業活性化への寄与をめざします。

この新しい取り組みのセンター長に就任した農学部 田邊公一教授は、滋賀県の酒造会社と連携し、日本酒造りに欠かせない「生酛(きもと)」の研究に取り組んでいる。

「生酛は蒸米、水、麹を合わせてアルコールを生み出す酵母を繁殖させる古くからの手法です。仕込み後5日目をピークに硝酸還元菌が出現。15日目～20日目に乳酸球菌や乳酸桿菌が増加して抗菌効果を持つ亜硝酸と乳酸が作り出されます。この硝酸還元菌と乳酸菌は雑菌の増殖を抑える大切な微生物ですが、やがて消滅し、酵母が増殖を開始。酵母が大多数となり、生存競争の勝者となります。しかし実は初期に出現した微生物たちも酵母による発酵に影響を及ぼすことで、完成品の酒の味や香りに作用している可能性もあるのではと、私は考えています」

田邊教授の研究では、酵母も生き残りのために性質を変えていることがわかった。

「酵母はグルコース(ブドウ糖)を栄養にアルコールを産生する微生物ですが、増殖の過程で、一時的にグルコース以外の糖を消費する個体が出現します。その後、酵母が一定量まで増えると、再びグルコースからアルコールを産生するようになります」

こういった酵母をはじめとするそれぞれの微生物の振る舞いや、複数の微生物間の相互作用を科学的に解明し、出現する順番や組み合わせをコントロールできるようになれば、日本酒の品質向上や安定した醸造、新商品開発にも繋がるという。

「微生物は勝手に生まれることはありません。老舗の酒蔵では、蔵の壁や天井、道具、樽などに棲みついた微生物が生酛に入り込むと考えられますが、自然任せの方法では製造管理が困難、品質が不安定といった問題も生じます。そのため、必要な微生物を培養し、最適なタイミングで添加することで安定的かつ質の高い発酵醸造方法を構築できる。良質の酵母や乳酸菌などは重要資源としてセンターで収集・保存・提供もおこなう予定です」

日本の発酵文化にもセンターで貢献

田邊教授は、滋賀県の伝統発酵食品・鮒寿司の研究にも取り組んでいる。鮒寿司は、塩漬けにした鮒と米飯を自然発酵させた日本古来のなれずしの一つだ。

「あの独特の味わいにも微生物が関与しています。そこで、県内の鮒寿司メーカーに協力いただき、漬床を調べたところ、最初はラブレ菌などの複数の乳酸菌が確認できましたが、3週目くらいからラクトバチルスブフネリという他の発酵食品ではあまり見られない乳酸菌が現れ、1カ月後には他の微生物が駆逐されてラクトバチルスブフネリが大多数になっていることがわかりました。ところが、不思議なことに鮒にも米飯にもラクトバチルスブフネリは現時点では見つけられていません。このラクトバチルスブフネリの由来を追究し、出現のタイミングを変えるなどすれば、鮒寿司の完成時期を調節したり、風味を一段と良くしたり、さらには鮒寿司の乳酸菌を使った別の発酵食品の開発など可能性は広がります」

様々な発酵食品に恵まれた日本だが、微生物間の相互作用に関しては未だ謎が多い。当センターに田邊教授をはじめ本学研究者の英知が集結し、全容が解明されることで、系統分類学的に離れた異種微生物間の協調機構の先駆的知見となることが期待される。

微生物の培養実験に用いる寒天培地

「現代の遺伝子、タンパク質解析手法を活用すれば、検出が困難な発酵食品内の微生物の発見と未知の微生物間相互作用などの解明が加速すると思います」

微生物の遺伝子解析については（独）奈良文化財研究所との共同研究もスタート。発掘された土器やその付着物から微生物の痕跡を検出し、発酵食品の歴史を紐解いていくという。

「日本の伝統食に発酵は欠かせません。研究によって発酵食品や食文化に新しい風を吹き込みたいです」という田邊センター長。発酵醸造微生物リソース研究センターが軸となり、日本の発酵のシンクタンクになっていくだろう。

田邊 公一

京都大学大学院農学研究科博士課程修了。博士（農学）。国立感染症研究所真菌部第一室室長、龍谷大学農学部食品栄養学科准教授などを経て、2020年より現職。真菌症フォーラム第12回学術集会奨励賞、第60回日本感染症学会東日本地方会奨励賞（基礎）、日本医真菌学会奨励賞などを受賞。2021年4月に発酵醸造微生物リソース研究センター長に就任。

06 Event Ryukoku Museum

人々の願いを形にした女神の数々 その美しくも荒々しい本質に迫る

開館 10 周年記念

秋季特別展 『アジアの女神たち』

2021 年 9 月 18 日（土）〜11 月 23 日（火・祝）

月曜日と 9 月 21 日は休館日（ただし 9 月 20 日は開館）

主催：龍谷大学 龍谷ミュージアム、毎日新聞社、京都新聞

龍谷ミュージアムの秋季特別展のテーマは「女神」。仏教美術を扱うイメージからすると、意外性のあるテーマではないだろうか。企画を担当した岩井俊平学芸員に話を聞いた。

「古代ギリシャで、ミュージアムは芸術を司る女神（ムーサ、ミューズ）たちを祀る神殿でした。本展ではミュージアムの当初の役割に立ち返り、アジア各地で深く信仰された女神たちに焦点を当てました。展示の核となるのは、インドの多様な女神たちが仏教の女神となっていく、その過程や関係性。吉祥天や弁才天といった神々に、例えばヒンドゥー教由来の複数の女神が入り込んでいる場合があるのです」

インド発、中国を経て日本にたどり着いた『女神たち』が数多く展示されるなかで、とりわけ注目されるのが、奈良・薬師寺蔵の国宝『吉祥天像』だ。

「近年では、寺のお正月の法要でしか公開されていなかったので、展示させていただけるとは思いませんでした。間近で見られるまたとないチャンスとなりました（9月18日（土）〜24日（金）のみの限定公開）。また個人的には、多種多様な武器などを手にする、8本腕の弁才天像も是非見ていただきたいですね。弁才天というと、琵琶を持った七福神の女神という印象が強いと思いますが、福の神や財宝の神という側面は、日本に来てから強まった要素です。人間たちの様々な願いが弁才天に託された結果です。同時に、手にした武器の数々というのは、インドのドゥルガーという戦闘女神の要素がそのまま引き継がれているのです。女神を深く知れば知るほど、その混沌さに目が眩む思いがしました」

日本やメソポタミアの土偶から観音菩薩まで、アジア全体に視野を広げた女神像が一堂に会する展示は、類例がないという。

「人類が造り出した最初期の人形（ひとがた）は、世界の多くの地域で女性の姿です。豊穣・多産のシンボルとして、芸能・吉祥を司る存在として、さらには残虐な戦闘の神として人間の願いを託され重層的に姿を変えてきた女神という存在。今回の展示を通してその変遷を感じていただけたら嬉しいです」

岩井俊平 龍谷ミュージアム学芸員

龍谷ミュージアム公式HP

国宝 吉祥天像 奈良時代・8世紀　奈良 薬師寺（©飛鳥園）

成長と強さを築く「考える力」

飯田 光輝
1999年龍谷大学文学部英語英米文学科卒業。高校1年生からゴルフを始め、本学のゴルフ部に所属。中嶋常幸プロに師事。27歳でトレーナーの世界に入り、2013年よりアメリカの男子ツアーで戦う松山英樹プロの専属トレーナーに。肉体強化をはじめ、コンディション管理全般をサポートしている。

07 Connect, Unlimited

龍谷大学をつなぐ対談

パフォーマンスコーチ
飯田 光輝さん × ゴルフ部（経済学部2年生）
仲村 果乃さん

2021月4月、プロゴルファーの松山英樹選手が米「マスターズ・トーナメント」で優勝。日本人として初のメジャー制覇を遂げた。この偉業を支えた『チーム松山』の一員が本学ゴルフ部出身、飯田光輝トレーナーだ。この度、飯田トレーナーを招いて、本学でプロゴルファーをめざすゴルフ部の後輩、仲村果乃さんとリモートで対談をしていただいた。

飯田：久しぶりに母校のゴルフ部に顔を出そうと思っていたんですよ。

仲村：本当ですか。ゴルフ部のことを気にかけてくださっていたなんて感激です。飯田さんが松山選手の専属トレーナーになられた経緯を教えてくださいますか。

飯田：27歳で、賞金を稼ぐほどのプロゴルファーにはなれないと見切りをつけ、それならば「プロゴルファーを見るプロになろう」とトレーナーになる道を決めました。専門知識を一から勉強して30歳からプロトレーナーの仕事をスタート。師匠である中嶋常幸プロをはじめ、4名のプロゴルファーの専属トレーナーになり、その頃まだアマチュアの大会に出場していた大学生だった松山選手と出会い、何度か体のメンテナンスをしていたんです。その後彼がプロでめきめき力を発揮し、アメリカに挑戦をする2013年に「一緒に来てもらえませんか」と誘われたのがきっかけです。専属トレーナーを務めている方々にも迷惑がかかるのでどうするか悩みましたが、中嶋プロが「いい機会だ。飯田もチャレンジしろ」と背中を押してくださり、決意しました。ところで仲村さんは、将来を嘱望されているゴルファーだと聞きましたが。

仲村：ありがとうございます。私は11歳でゴルフをはじめ、高校生のときにIMGA世界ジュニア選手権で2位の成績でした。優勝できなくて悔しかったです。今は10月のプロテストに合格するために日々練習中です。

飯田：どんな練習をしているの？ゴルフ部恒例の稲荷山登頂ランニングはしてる？

仲村：稲荷山まで走られていたんですか？

飯田：私が学生の頃は、部員みんなで稲荷山まで走り込んでいましたよ。プロの世界では一年を通して何試合も戦わなければいけないので、それに通用するスタミナが必須。松山選手だって必ず毎朝20分以上走ってもらっていますよ、試合当日でも。私は走らせるトレーナーなので。

仲村：せっかくの機会なので、飯田さんにゴルフに特化した筋トレや体幹トレーニング方法があればお聞きしたいです。

飯田：今のゴルフはパワーゲームになってきてマッチョな選手も多いですが、コンタクトスポーツではないので、筋肉隆々になる必要はないんです。松山選手の筋トレは自重のみ。

仲村 果乃
奈良育英高等学校出身。経済学部2年生。ゴルフ部所属。2018年関西女子アマチュアゴルフ選手権7位。2019年IMGA世界ジュニア選手権2位。ドライバー平均飛距離230ヤード。ベストスコア66。

専属トレーナーになって8年になりますが、最初の5年間は下半身と体幹に重点をおいたトレーニングしかおこなっていません。上半身を鍛え出したのはここ3年くらいです。闇雲に筋力をつけるよりも大事なのは柔軟性や瞬発力、俊敏性なので、それを鍛えるためのトレーニングプランをたてています。

仲村：トレーナーのお仕事で、やりがいを感じる瞬間はどんなときですか。

飯田：もちろん松山選手のマスターズ優勝は一番うれしかったですね。彼とアメリカに渡ったときからメジャー制覇という目標を掲げてずっと取り組んできましたから。優勝したおかげで『チーム松山』にスポットがあたり注目されましたが、トレーナーは表に出る仕事ではありません。私の仕事によって彼がしっかり準備し、最高のパフォーマンスを発揮できて結果を残すことが何よりのやりがいで、そこにプライドを持って取り組んでいます。では、私からも質問しますが、仲村さんはどんなプロゴルファーになりたいのですか？

仲村：現在ツアーで活躍されているプロゴルファーと私の決定的な違いは何なのかが見えてこなくて立ち止まっています。

飯田：仲村さんの強みはなんですか？自分のストロングポイントやプレースタイルを知ることはとても重要です。レギュラーツアーに出る機会があれば、他のプロゴルファーと比べて自分の足りない部分がどこなのか感じ取ってください。その部分に気がつければ、今やるべきことが変わってくると思います。明確なものがわからないとめざすものが決まらないので、練習ラウンドをするときも、自分はプレッシャーがかかったときにどういうミスをするのか、それを克服するにはどうすれば良いのか、そういうことを考えながらの練習が必要です。練習のための練習ではなく、試合のための練習をしなければ駄目です。そして、実際その場面に遭遇したときに、プレッシャーを受けずにプレーができる、そういう状態をつくっておくことが重要です。

仲村：私は何でもコーチに頼ってしまいがちですが、普段の練習から自分自身で明確な目標を持たないと駄目ですね。

飯田：コーチの目から見て、課題を教えてもらうことは大切ですが、ゴルフをやるのは自分です。プレイ中は誰も助けてくれません。自分で考え、気づいて、自分で修正できる力が必要です。松山選手は27時間くらいゴルフのことばかりを考えていますよ。自分がこういうボールを打てればトーナメントに勝てるとか、彼のなかでの目標が常にあるので、それを可能にするトレーニング方法はないのか、しつこく質問してきます。練習も納得しなければ、こちらがストップするまで止めません。

仲村：自分自身で気づき、自分でやるという姿勢が大事なんですね。「考える力」をつけて強くなります。貴重なアドバイスをしていただきありがとうございました。

飯田：今度ゴルフ部の練習を見に行きます。そのときは、言葉ではなく実践で教えますよ。仲村さんもいろいろ質問を用意しておいてください。まだまだ完成されていないゴルフだと思いますが、3年先、5年先を見据えてどういうゴルファーになりたいかゴールを見つけてください。そのためには、練習にも試合にも体力が必要です。今からプロで通用する体力を養ってください。期待しています。

08 News & Topics

最新情報

※マスクを外して写っている写真は
撮影時のみマスクを外しています

吹奏楽部が第44回全日本アンサンブルコンテストで金賞を受賞

2021年3月、宮崎県立芸術劇場にて第44回全日本アンサンブルコンテストが開催され、龍谷大学吹奏楽部のクラリネット四重奏が大学の部において金賞という快挙を成し遂げた。全国10支部の代表が競うなか、本学吹奏楽部は関西支部代表として出場。緊急事態宣言のもと、1日3時間という制限された練習環境であったにも関わらず、全国の舞台では聴衆を魅了する圧巻の演奏を披露した。

スポーツチャンバラサークル龍刃会 全日本学生大会新人戦 女子団体戦で優勝

2021年5月、高知県くろしおアリーナで開催された第27回全日本学生大会新人戦において、一般同好会スポーツチャンバラサークル龍刃会が女子団体戦で見事優勝に輝いた。男子団体戦は準優勝。個人戦では女子グランドチャンピオン戦で優勝と新人王を獲得。さらに男子は両手長剣の部、楯長剣の部で優勝。女子は楯長剣の部、楯小太刀の部、両手長剣の部でも優勝し、多くの賞を獲得する快挙を遂げた。

軟式野球同好会 河合さんが 全日本大学軟式野球連盟日本代表選手として選抜出場

全日本大学軟式野球連盟が主催する国際交流事業の2020年度大学軟式野球日本代表“大学軟式JAPAN”のメンバーに軟式野球同好会の河合智紀さん（文学部3年）が選抜出場した。
全国の大学から選ばれた優秀選手24名で構成され、コロナ禍で海外遠征は中止となったが、2021年2月に静岡県伊東市で開催された国際親善大会に出場。次年度の代表選手にも選出されている。

犯罪や非行からの立ち直りを支援するハンドブックを京都府と連携し初発行

龍谷大学は京都府と2020年3月に締結した「犯罪のない安心・安全なまちづくりに関する協定」に基づき、“誰もが犯罪の被害者にも加害者にもならず、安心して暮らせる共生社会の実現” を目的に官学連携事業を展開。2020年度の事業成果として2021年3月に本学犯罪学研究センターの学術的知見をもとに『 “つまずき” からの “立ち直り” を支援するためのハンドブック』を発行した。2021年度はこのハンドブックを活用した研修を実施する。

犯罪防止と刑事司法を世界の若者と議論 京都コングレス・ユースフォーラムに参加

2021年3月、「国連犯罪防止刑事司法会議（コングレス）」が50年ぶりに京都で開催された。そのプレイベントとして、世界の若者たちが安全・安心な社会の実現について話し合う「京都コングレス・ユースフォーラム」が開催された。本学からは犯罪学研究センターの教育国際化の一環として、法学部生5名が参加した。入念な事前準備を経て、2日間にわたった英語での濃密な議論は、本学の学生にとって貴重な経験となった。

兵庫県洲本市に洲本ブランチを開所 新たな事業モデルの構築をめざす

龍谷大学と域学連携事業を実施している洲本市に2021年4月「龍谷大学ユヌスソーシャルビジネスリサーチセンター 洲本ブランチ」を洲本商工会議所内に開所。地域課題の解決に繋がるビジネスを生み出す拠点として、地元住民や企業関係者が使えるコワーキングスペースを併設。起業セミナーや新しい取り組みの発信基地として、再生可能エネルギーを活用したソーシャルビジネスモデルの構築等、地域活性化を図る。

関西の23社・団体を「ソーシャル企業」に初認証

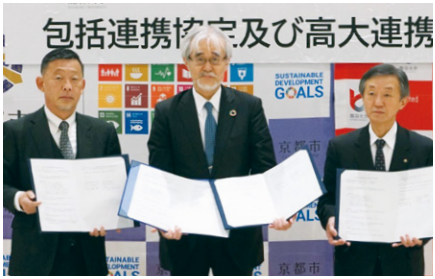
龍谷大学ユヌスソーシャルビジネスリサーチセンター、京都信用金庫、京都北都信用金庫、湖東信用金庫は、2020年12月に社会課題に取り組む地域企業の成長を支えるべく、一般社団法人ソーシャル企業認証機構を設立し、「ソーシャル企業認証制度」を創設。
2021年5月には「ソーシャル企業」として23社・団体を初めて認証した。同法人は2021年度内に1000社の認証をめざす。

高島市×龍谷大学「オリーブ茶」地域の持続可能性と発展に取り組む

2019年より滋賀県高島市「深清水オリーブ産地協議会」と龍谷大学は、ローカルブランド開発に取り組み、高齢化で放置された柿畑を活用してオリーブの栽培を開始。良質な実が収穫できるまで時間がかかることから農学部食料農業システム学科フードシステム学研究室（山口准教授）の学生がデザインを担当し、オリーブ茶の商品化を支援。2021年6月から葉山珈琲メタセコイアGARDEN店（高島市）、南深清水FF倶楽部（高島市）にて販売を開始した。

「赤山椒」が減塩に有効であることを確認 ハウス食品との共同研究

龍谷大学名誉教授 伏木亨氏（研究当時農学部教授）と、ハウス食品（株）で働きながら当時本学大学院農学研究科で学ぶ樋爪彩子氏の共同研究において、赤山椒エキスには味の持続性をもたらし、おいしさや満足度を高める効果があり、減塩に有効であることを研究で明らかにした。減塩による食の満足感の減弱を補完する効果に繋がる画期的な成果である。本研究成果は、ハウス食品の新製品「だしの匠塩」の開発に繋がった。



「龍谷大学×京都奏和（そうわ）高等学校」高大連携協定を締結

2021年3月、龍谷大学と京都市教育委員会、京都市立京都奏和高等学校（2021年4月開校 京都市伏見区）は高大連携協定を締結した。昼夜4つの時間帯を選択できる新しい定時制の京都奏和高校は「生徒の学び直しを支援する」特徴あるカリキュラムを持っており、龍谷大学の「建学の精神」や「仏教SDGs」の精神と合致している。両者の交流を深めることで双方向の教育効果の高まりをめざす。

「龍谷大学×草津東高等学校」高大連携協定を締結

2021年4月、龍谷大学と滋賀県立草津東高等学校は「龍谷大学と草津東高等学校との高大連携に関する包括協定」を締結した。龍谷大学と草津東高校の双方が、教育・研究等の様々な分野において、人的交流および知的資源の相互活用その他の連携協力を推進することにより、それぞれの活動の充実・改善を図り、双方の教職員および学生・生徒の資質向上に努めていく。学習機会の提供や交流を深め、双方向での教育効果が高まる連携を推進する。

キャンパス生活のリスタート 気持ち新たに2020年度入学生入学式を執行

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、入学式の中止、自宅でのオンライン授業など、思い描いた学生生活を送ることができなかった2020年度の新入生に、気持ち新たにキャンパスライフを送っていただきたいという想いを込め、2021年4月に新2年生の入学式を深草・瀬田キャンパスで、感染症対策を十分に講じて対面で執行。同時にオンラインでLIVE配信も実施した。同様の形式で2021年度新入生の入学式も執行した。

コロナ禍による航空運賃高騰を受け 交換留学生の渡航費を校友会が補助支給

龍谷大学はコロナ禍で停止していた交換留学生の海外派遣の渡航を2021年10月から再開する。しかし航空運賃はコロナ前の数倍となる場合も多く、関西国際空港の国際線の欠航により東京を経由しなければならないなど、学生の大きな経済的障壁となっている。そのような現状を鑑み、本学を卒業・修了の方々が会員となる同窓会組織「龍谷大学校友会」が補助金支給を決定。今秋渡航する学生に5〜20万円の運賃補助（最大14名）をおこなう。

副学長に 安藤 徹（あんどう とおる）教授が就任

（任期：2021.4.1〜2023.3.31）

名古屋大学大学院文学研究科博士後期国文学専攻修了。博士（文学）。日本学術振興会特別研究員（PD）を経て、2000年に龍谷大学文学部に講師として着任。2002年に助教授、2010年に教授に昇任。この間、図書館長（2013〜2016年度）、文学部長（2017〜2020年度）を務める。専門は『源氏物語』を中心とした日本古典文学。今春、副学長と同時に龍谷ミュージアム館長にも就任。

副学長に 松木平 淳太（まつきだいら じゅんた）教授が就任

（任期：2021.4.1〜2023.3.31）

東京大学大学院工学系研究科博士課程物理工学専攻。1992年に龍谷大学理工学部数理情報学科に着任。1999年に助教授、2004年に教授に就任。2009年に龍谷大学科学技術共同研究センター所長、2012年に同センター長、2015年より理工学（現在の先端理工学）部長を務める。専門分野は応用数理。

09 Book Café 新刊紹介

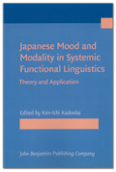
＊大学から出版助成を受けた新刊情報

龍谷大学仏教文化研究叢書41
『貞慶撰「観世音菩薩感應抄」の研究』＊

楠 淳證（文学部教授）・
新倉 和文（元客員研究員）共著
法藏館／9,900円（税込）

龍谷大学善本叢書35
『蘆庵本歌合集』＊

安井 重雄（文学部教授）編
思文閣出版／26,400円（税込）



龍谷大学国際社会文化研究所叢書第26巻
『Japanese Mood and Modality in Systemic Functional Linguistics＊
—Theory and Application—』

角岡 賢一（経営学部教授）編
John Benjamins Publishing Company／€99.00

龍谷大学国際社会文化研究所叢書第27巻
『聖地・熊野と世界遺産』＊

田中 滋（龍谷大学名誉教授）・
寺田 憲弘（非常勤講師）編著
晃洋書房／3,520円（税込）

『近代真宗「女性教化」資料集成＊
—第1巻〜第4巻—』

岩田 真美（文学部准教授）・
中西 直樹（文学部教授）編
三人社／26,400円（税込）

『戦後学生雑誌と学生運動』＊

中西 直樹（文学部教授）著
不二出版／2,750円（税込）

龍谷大学社会科学研究所叢書第133巻
『廃棄物問題と公共政策＊
—地域社会のくらしとごみ—』

金紅実（政策学部准教授）編著
晃洋書房／4,180円（税込）

龍谷大学社会科学研究所叢書第134巻
『雇用・生活の劣化と労働法・社会保障法＊
—コロナ禍を生き方・働き方の転機に—』

木下 秀雄（元法学部教授）・
武井 寛（法学部教授）編著
日本評論社／6,600円（税込）

龍谷大学社会科学研究所叢書第135巻
『エネルギー自立と接続可能な地域づくり＊
—環境先進国オーストリアに学ぶ—』

的場 信敬（政策学部教授）編
昭和堂／3,300円（税込）

『刑法における未必の故意＊
—日・独比較法史研究—』

玄 守道（法学部教授）著
法律文化社／7,040円（税込）

『テキストマイニングから読み解く経済学史』＊

小峯 敦（経済学部教授）編
ナカニシヤ出版／3,850円（税込）

『奪われた在日コリアンの日本国籍＊
—日本の移民政策を考える—』

李 洙任（龍谷大学名誉教授）著
明石書店／4,180円（税込）

『46歳で父になった社会学者』

工藤 保則（社会学部教授）著
ミシマ社／1,980円（税込）

『経済学史』

小峯 敦（経済学部教授）著
ミネルヴァ書房／2,640円（税込）

『キリンが小説を読んだら
ーサバンナからはじめる現代文学60ー』

澤西 祐典（国際学部講師）共著
書肆侃侃房／1,760円（税込）

『新・コンメンタール民法（家族法）』

中田 邦博（法学部教授）編
日本評論社／3,300円（税込）

『VBT
ートレーニングの効果は「速度」が決めるー』

長谷川 裕（経営学部教授）著
草思社／2,860円（税込）

『超かんたん 自分でできる
人生の流れを変えるちょっと不思議な
サイコセラピー
ーP循環の理論と方法ー』

東 豊（文学部教授）著
遠見書房／1,870円（税込）

『時空の幾何学
ー特殊および一般相対論の数学的基礎ー』

樋口 三郎（先端理工学部准教授）訳
森北出版／5,280円（税込）

『スピノザ入門[改訂新版]』

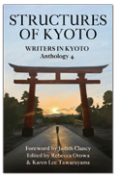
松田 克進（文学部教授）共訳
白水社／1,320円（税込）

『臺大教授帶你留學日本』

三木 健（先端理工学部教授）共著
書泉出版社／250 NTD

『「原罪論」の形成と展開
ーキリスト教思想における人間観ー』

山口 雅広（文学部准教授）共著
知泉書館／5,500円（税込）



『Structures of Kyoto
（Writers in Kyoto Anthology 4）』

Rebecca Otowa（元非常勤講師）・
Karen Lee Tawarayama（事務職員）共編
Writers in Kyoto／1,216円（税込）

『事務管理・不当利得・不法行為』

若林 三奈（法学部教授）共著
日本評論社／2,090円（税込）

BYUNGKU UNIVERSITY

10 My Campus
マイキャンパス

「My Campus」では、龍谷大学のキャンパス風景写真を読者の皆さまから募り、ご紹介させていただきます。ご応募いただいた写真のなかから、広報誌「龍谷」編集委員会にて選定の上、次号の本ページを飾らせていただきます。
是非、皆さまのお気に入りのキャンパス風景を写真に収め、奮ってご応募ください。

応募締切
2021年12月17日 (金)

募集内容
龍谷大学のキャンパスを撮影した写真

注意事項
- 2021年9月以降に本人が撮影した写真に限ります。
- 1点につき10MB以内のjpgファイル（横向き）。
- 組写真、合成写真、過度の画像補正など実像に反する写真は不可。
- 著作権、肖像権には十分注意してください。
- 応募に係る個人情報は本事業以外には利用しません。
- 採用作品につきましては、龍谷大学が広報活動のために自由に利用できる権利を許諾していただきます。

応募方法
以下フォームからご応募ください。

https://www.ryukoku.ac.jp/about/mycampus/

今回は、深草キャンパスをご紹介。
7号館（旧図書館）の解体工事が終了し、2021年度からまた新たなキャンパスの風景が広がっています。

Ryukoku Magazine

2021 VOLUME 92

広報誌「龍谷」

広報誌「龍谷」のデジタル版配信について

広報誌「龍谷」はデジタル版でも閲覧できます。冊子版の発送を不要とされる方は、下記のデジタル版配信申込ページにてお申し出ください。手続き完了以降は、毎号の広報誌「龍谷」刊行ごとに、ご登録いただいたメールアドレスにデジタル版発行のご案内をいたします。

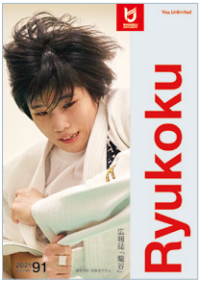
広報誌「龍谷」デジタル版配信申込ページ
https://www.ryukoku.ac.jp/prdigital/

下記URLおよびQRコードから過去の広報誌（デジタル版）がご覧いただけます

2019年No.88

2020年No.89

2020年No.90



2021年No.91

Digital Library
https://www.ryukoku.ac.jp/about/pr/publications/

広報誌「龍谷」92号読者アンケート&プレゼント応募フォーム

今後のより良い広報誌づくりのため、Webアンケートにて皆さまのご意見をお聞かせください。
なお、アンケートにご回答いただいた方全員が、プレゼント抽選の対象となります。

読者アンケート＆プレゼント応募フォーム
https://www.ryukoku.ac.jp/enquete/

読者プレゼント

龍谷ミュージアムオリジナルエコバッグ＆付箋セット…5名様

アカイノロシ コーヒードリップバッグ［チャーリー深煎り］
3袋セット… 5名様

ご希望の方は、読者アンケートフォームにご回答ください。また、ハガキでご応募の方は、ご希望のプレゼント名を明記した上で、住所・氏名・年齢・職業・電話番号・（龍谷大学卒業生は卒業年度・学部）および広報誌「龍谷」の感想・意見、あなたの近況などを書き添えてご応募ください。ハガキでご応募の場合のあて先は下記「プレゼント」係まで。感想や近況は「読者のひろば」に掲載させていただくことがあります。
締め切りは12月17日（金）必着。
応募多数の場合は抽選となります。当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。

プレゼント・お便りのあて先

龍谷大学 学長室（広報）
〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67
電話：075（645）7882　FAX：075（645）8692
E-mail：kouhou@ad.ryukoku.ac.jp

読者のひろば

卒業してから10年以上経ちますが、今でも龍谷大学のことが気になります。広報誌でいろんな情報を得られて本当に嬉しいです。
卒業生 Y さん

コロナ禍で、保護者は大学へ行く機会もないなか、広報誌は大学に触れることができるアイテムだと思います。
在学生保護者 N さん

コロナ禍でもがんばる姿勢が伝わってきて、自分も頑張ろうと思えました。
在学生 K さん

お便り待っています

「読者のひろば」へのお便りをお待ちしています。また本誌への推薦や情報をお寄せください。いずれも左記のあて先まで。
※いただいた個人情報は広報誌「龍谷」の編集以外の目的には使用いたしません。

編集委員（五十音順）
本多 滝夫、 松永 敬子、 吉岡 祥充

事務局
田中 雅子、谷 穂乃美

広報誌「龍谷」92号
2021年9月24日発行
編　集：龍谷大学編集委員会
制　作：龍谷大学 学長室（広報）
発　行：龍谷大学

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67
電話　075（642）1111（代表）
龍谷大学ホームページURL
https://www.ryukoku.ac.jp/

公式 Facebook「龍谷大学」
www.facebook.com/RyukokuUniversity/

公式 YouTube「龍谷大学」
www.youtube.com/user/RyukokuUniversity

公式 Instagram「龍谷大学」
www.instagram.com/ryukokuuniversity

公式 Twitter「龍谷大学広報」
twitter.com/ryukoku_univ_pr

RYUKOKU
UNIVERSITY